

兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録(2)*

高橋 寿郎

50. 氷ノ山調査団(1958) 氷ノ山の昆虫及び植物.
Natura(15):17-19.
クロズマメゲンゴロウの記録あり.
51. 安達鉄美(1958) 本年度(1957)新しく記録された甲虫.
Natura(15):87-88.
タテナミゲンゴロウ 市島町 VII.1957. 記録はあるが標本はなかったものとある=ルイスツブゲンゴロウ.
52. 堀田 久(1959) 淡路島産甲虫目録(2).
兵庫生物 3(5):376-378.
ゲンゴロウ科4種. クロゲンゴロウ, チビゲンゴロウ, シマゲンゴロウ, ツブゲンゴロウ.
ミズスマシ科 オオミズスマシの記録あり.
53. 中根猛彦(1959) 日本の甲虫(45).
新昆虫 12(1):56-62.
日本産ゲンゴロウ科の総説であるが本文の中でムカシゲンゴロウ 姫路市近傍の井戸から採集されたとの記あり.
54. 中根猛彦(1959) 日本の甲虫(47).
新昆虫 12(7/8):47-52.
ゲンゴロウ科の総説である. メクラゲンゴロウ(姫路市近傍の井戸より), *ssp. miurai* S.Uéno(柏原産), コセスジゲンゴロウ(摂津, 1♂)の記録がある.
55. 高橋 匡(1959) 氷ノ山の甲虫.
Natura(16):28-42.
56. 村上雅昭(1960) 扇ノ山の甲虫.
Natura(17):33-35.
ツブゲンゴロウの記録あり.
クロズマメゲンゴロウ, チビゲンゴロウの記録あり.
57. 高橋 匡(1961) 氷上郡昆虫目録追加(第2報).
Natura(18):66-74.
キベリマメゲンゴロウ氷上町犬岡の記録あり.
58. J.B.Browne & M.Sato(1962) On the Japanese species of the Genus *Hydrochus* Leach (Coleoptera, Hydrochidae).
Nipponius 1(19):1-6.
p.4-6. *Hydrochus japonicus* Sharp の西宮からの記録がある.
59. 長田高校生物研究会甲虫班(1962) 六甲山系甲虫類目録(II).
Shida(10):11-20.
ミズスマシ科ミズスマシ, ゲンゴロウ科ハイイログゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ
上記3種 須磨区妙法寺での記録.
60. 山本義丸・高橋 匡(1962) 氷上郡昆虫目録追補(第1集)
p.5 キベリマメゲンゴロウ 氷上町犬岡 21.
VII.1960.
61. 山本茂信(1962) 妙見山資料館奉納 妙見山昆虫採集目録.
ガムシが記録されている.
62. 辻 啓介(1963) 但馬扇ノ山甲虫目録(1).
兵庫農大生物研究部々誌(3):24-47.
ミズスマシ科ミズスマシの記録あり.

* 兵庫県甲虫相資料・314

63. 高橋 匡(1963) 出石郡昆虫目録(第1報).

VITA(兵庫県立出石高校科学部生物班会誌)

(1):1-34.

次のような水棲甲虫の記録がある.

p.12.

コガシラミズムシ科1種. コガシラミズムシ.

ゲンゴロウ科12種. ケシゲンゴロウ, チビゲンゴ

ロウ, ツブゲンゴロウ, アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ, モンキマメゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, ハイイロゲンゴロウ, シマゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, ゲンゴロウ, クロゲンゴロウ, マルガタゲンゴロウ.

ミズスマシ科2種. オオミズスマシ, ミズスマシ.

ガムシ科14種. セマルガムシ, キバネケシガムシ, ウスモンケシガムシ, アカケシガムシ, セマルケシガムシ, マグソガムシ, シジミガムシ, キイロヒラタガムシ, ヒメガムシ, ガムシ, コガムシ, ゴマフガムシ, トゲバゴマフガムシ, マメガムシ.

ナガドロムシ科1種. ナガドロムシ.

ヒメドロムシ科5種. キスジミゾドロムシ, イブシミゾドロムシ, クロサワドロムシ, ケベリナガアシドロムシ, アワツヤドロムシ.

64. 後藤光男(1963) 篠山川のドロムシ.

ねじればね 8(2):1

次の記録がある.

ヒラタドロムシ科1種. ヒラタドロムシ.

ホソドロムシ科7種. キスジミゾドロムシ, ミヤモトミゾドロムシ, イブシミゾドロムシ, ツヤナガアシドロムシ, ミゾツヤドロムシ, ヒメツヤドロムシ, マルツヤドロムシ.

65. 高橋 匡(1965) 出石郡昆虫目録(第2報).

VITA(2):1-16.

次の記録あり.

ゲンゴロウ科4種. コツブゲンゴロウ, セスジゲンゴロウ, マダラスジゲンゴロウ, マルケシゲ

ンゴロウ.

ガムシ科1種. タマガムシ.

66. 佐々木基之(1969) 甲陵中学附近の甲虫類.

甲陵生物(4):8-14.

p.13. ガムシ科. ヒメガムシ, キイロヒラタガムシの2種記録あり.

67. 仲田元亮(1970) 「能勢の昆虫(甲虫)」

B5.107p. (自刊)

水棲甲虫が次のごとく多く記録されている.

p.14-15.

ゲンゴロウ科6種. コシマゲンゴロウ, モンキマメゲンゴロウ, チビゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, ツブゲンゴロウ, アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ.

ミズスマシ科1種. オオミズスマシ.

p.15-16.

ガムシ科11種.

ガムシ, コガムシ, ヒメガムシ, トゲバゴマフガムシ, セマルガムシ, ウスモンケシガムシ, キバネケシガムシ, セマルケシガムシ, チビヒラタガムシ, アカケシガムシ, キイロヒラタガムシ.

p.38.

ヒラタドロムシ科2種.

ヒラタドロムシ, ヒゲナガチビヒラタドロムシ.

ドロムシ科1種. ムナビロツヤドロムシ.

p.39.

ヒメドロムシ科3種.

ケベリナガアシドロムシ, アワツヤドロムシ, キスジミゾドロムシ.

68. 辻 啓介・岸田剛二(1972) 但馬扇ノ山の甲虫目録.

扇ノ山周辺の動物(1):20-48. 兵庫県自然保護協会調査資料第1集.

次の水棲甲虫の記録がある.

ミズスマシ科1種。ミズスマシ。

ゲンゴロウ科2種。ニセケシゲンゴロウ=学名

Hyphydrus paromoeus Guignot からしてケシゲンゴロウ *H. japonicus* Sharp と考える。、チビゲンゴロウ。

ガムシ科2種。キベリヒラタガムシ、トゲバゴマフガムシ。

ヒラタドROMシ科1種。クシヒゲマルヒラタドROMシ。

ヒメドROMシ科1種。キスジミゾドROMシ。

69. 久松定成ほか(1973) 本四架橋ルートの島々の昆虫相。

本州四国連絡架橋の伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書。学術調査編pp.80-90。

次の淡路島からの水棲甲虫の記録がある。

コガシラミズムシ科1種。コガシラミズムシ。

ゲンゴロウ科4種。チビゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、タテナミツブゲンゴロウ=ルイスツブゲンゴロウ、アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ。

ミズスマシ科2種。オオミズスマシ、ミズスマシ。ガムシ科2種。コケシガムシ、ヒメガムシ。

70. 西村 登・原 昌久(1974) 加古川水系の底生動物相とその現存量ならびにそれに基づく生物学的水質判定結果。

加古川水系底生動物調査報告書。B5.64p。

(兵庫県生活部刊)

加古川流域における水棲甲虫次の記録がある。

ヒラタドROMシ科2種。ヒメヒラタドROMシ、マスダチビヒラタドROMシ。

ヒメドROMシ科1種。 *Stenelmis flavovittatus*

71. 高橋寿郎(1974) 中国山脈東端の昆虫目録。甲虫。

東中国山地自然環境調査報告：197-223。

水棲甲虫類として次のごとく記録した。

p.199。

コガシラミズムシ科1種。コガシラミズムシ

ゲンゴロウ科8種。ニセケシゲンゴロウ=ケシゲンゴロウ、チビゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、セスジゲンゴロウ、クロズマメゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ。

ミズスマシ科1種。ミズスマシ。

ガムシ科4種。ウスモンケシガムシ、スジヒラタガムシ、キベリヒラタガムシ、トゲバゴマフガムシ。

ドROMシ科1種。ムナビロツヤドROMシ。

ヒメドROMシ科1種。キスジミゾドROMシ。

72. 久松定成ほか(1974) 本四架橋ルートの島々の昆虫相。

本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書(その2)。学術調査編pp.75-96。

淡路島から次の水棲甲虫が記録されている。

ゲンゴロウ科2種。モンキマメゲンゴロウの一種、コシマゲンゴロウ。

ミズスマシ科1種。ヒメミズスマシ。

73. 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第1報):1-54。

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊。

但馬地方産の昆虫標本のリストである。採集地、月日、採集者名が各種についている。次のように水棲甲虫のリストがある。

コガシラミズムシ科1種。コガシラミズムシ。

ゲンゴロウ科8種。チビゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、タテナミツブゲンゴロウ=ルイスツブゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、クロゲンゴロウ。

ミズスマシ科1種。ミズスマシ。

ガムシ科8種。セマルガムシ、キイロヒラタガムシ、ヒメガムシ、ガムシ、コガムシ、ゴマフガムシ、ホソゴマフガムシ、マメガムシ。
ナガドロムシ科1種。ナガドロムシ。
ヒメドロムシ科1種。クロサワドロムシ。

74. 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第2報):55-66.

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊。

前報の続きでゲンゴロウ科1種。ゲンゴロウの記録がある。

75. 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報):1-24.

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊。

前報の続きでゲンゴロウ科1種。シマゲンゴロウの記録がある。

76. 西村 登・西村好治郎・中村広義・井上弁三(1975) 兵庫県円山川水系底生動物調査報告書。

近畿地方建設局豊岡工事事務所。B5.114p.

円山川水系で採集出来る甲虫4種の記録があるが、水棲甲虫と考えられるものは次の1種である。即ち、マズダチビドロムシ。

77. 高田敏雄(1976) 伊丹の水生動物。B6.200p. 伊丹市自然シリーズ(伊丹市立教育研究所)

次の水棲甲虫の記録あり。

ゲンゴロウ科3種。ハイイロゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウ。

ミズスマシ科2種。ミズスマシ、オオミズスマシ。

ガムシ科4種。ガムシ、コガムシ、ヒメガムシ、タマガムシ。

78. 奥谷禎一(1976) 広域基幹林道予定地域自然環境調査報告書 IV。昆虫類調査 pp.57-73.

(兵庫県農林部治山課刊)

播磨中部高原地域基幹林道として多可郡下の加美町三谷、市原、鳥羽の甲虫類を調査とりまとめ

た。担当は高橋寿郎。その中で次の水棲甲虫が記録されている。

ガムシ科9種。コケンガムシ、アカケンガムシ、キバネケンガムシ、ケンガムシ、マグソガムシ、コウセンマルケンガムシ、ケンヒラタガムシ、コガムシ、マメガムシ。

79. 高橋寿郎(1976) 淡路島の甲虫相。

Parnassius(16):3-9.

本報告でゲンゴロウ科のスジゲンゴロウを特に取りあげている(この記録は関,1945 によるものである)。

80. 堀田 久(1976) 先山の昆虫相(1)。

Parnassius(16):11-32.

ミズスマシ科2種。オオミズスマシ、ミズスマシの記録がある。

81. 高橋 匡(1976) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第4報)。B5,1-20.

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊。

水棲甲虫として次の記録がある。

ゲンゴロウ科5種。ホソセスジゲンゴロウ、クロズマメゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、スジゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ。

ガムシ科1種。マグソガムシ。

82. 伊丹市立博物館(1977) 昆陽池生物目録。B5, 36p.

次の水棲甲虫の記録がある。

ゲンゴロウ科2種。ツブゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ。

ミズスマシ科1種。ミズスマシ。

ガムシ科5種。スジヒラタガムシ、キイロヒラタガムシ、ヒメガムシ、トゲバゴマフガムシ、タマガムシ。

83. 佐藤正孝(1977) 日本産ミズスマシ科概説(3)。甲虫ニュース(39):1-4.

ミズスマシ、兵庫、長崎を原産地として記載された日本で最も普通のミズスマシであると解説されている。さらに、Zaitzev(1910)はV. Pliginskiが1909年8月20日神戸で得たとする標本で、*Orectochilus corniger*と*O. nipponensis*の2種を記載したが、これらの種が日本で発見される見通しはほとんどないとのべている。

84. 広地 昇・奈良隆史・木戸和伸(1977) 三熊山の昆虫について。

Parnassius(17):5-28.

水棲甲虫が次のように記録されている。

コガシラミズムシ科1種。コガシラミズムシ。
ゲンゴロウ科5種。チビゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、タテナミツブゲンゴロウ=ルイスツブゲンゴロウ、アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ。
ミズスマシ科1種。ヒメミズスマシ。
ガムシ科1種。ヒメガムシ。

85. 仲井啓郎(1977) 竹田川の昆虫。

ひかみ(丹波自然友の会)(9):104-109.

ゲンゴロウ科コシマゲンゴロウの記録あり。

86. 堀田 久(1978) 淡路島産昆虫類採集記録。

Parnassius(18):4-16.

淡路島で採集された甲虫類の中で次の水棲甲虫の記録がある。

ゲンゴロウ科2種。ハイイロゲンゴロウ、ウスイロシマゲンゴロウ。
ガムシ科1種。ヒメガムシ。

87. 高橋寿郎(1978) 兵庫県神崎郡大河内町川上～砥峯地区の甲虫相。

大河内地点自然環境実態調査報告書.p.56-61.

ガムシ科セマルケシガムシの記録がある。

88. 堀田 久(1978) 淡路島産昆虫採集記録(II)。

Parnassius(19):10-14.

淡路島で採集された甲虫類の中で次の水棲甲虫の記録がある。

ゲンゴロウ科3種。マルコガタノゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ。

ガムシ科3種。シジミガムシ、コガムシ、キイロヒラタガムシ。

89. 仲田元亮(1978) 能勢の昆虫I. B5.405p.

(自刊・単行本)

能勢、川西市内における次記のごとく多くの水棲甲虫の記録がある。

ゲンゴロウ科8種。チビゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、アヤナミツブゲンゴロウ=シャープツブゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウ、キベリクロヒメゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ。

ミズスマシ科2種。オオミズスマシ、ミズスマシ。
ガムシ科20種。セマルガムシ、ウスモンケシガムシ、キバネケシガムシ、アカケシガムシ、ケシガムシ、マグソガムシ、ホソケシガムシ、セマルケシガムシ、シジミガムシ、スジヒラタガムシ、キイロヒラタガムシ、マルヒラタガムシ、チビヒラタガムシ、ヒメガムシ、オオヒメガムシ、ガムシ、コガムシ、ゴマフガムシ、トゲバゴマフガムシ、マメガムシ。

ナガドROMシ科1種。タテスジナガドROMシ。

ドROMシ科1種。ムナビロツヤドROMシ。

ヒメドROMシ科5種。キスジミゾドROMシ、アシナガミゾドROMシ、イブシミゾドROMシ、キベリナガアシドROMシ、アワツヤドROMシ。

90. 高橋 匡(1978) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第5報)

兵庫県立豊岡高等学校生物教室 B5.14p.

次の水棲甲虫の記録がある。

ガムシ科1種。ヒメゴマフガムシ。

ヒメドROMシ科2種。キベリナガアシドROMシ、アワツヤドROMシ。

91. 仲田元亮(1979) 「能勢の昆虫」その後(2).
きべりはむし 7(2):16-28.
次の水棲甲虫の記録あり。
ゲンゴロウ科2種。ニセケシゲンゴロウ=ケシゲンゴロウ, マルケシゲンゴロウ。
ホソガムシ科1種。ヤマトホソガムシ。
ガムシ科1種。タマガムシ。
チビドロムシ科1種。オオメホソチビドロムシ。
92. ホームサービス(株)(1979) 阪神高速・白川台(妙法寺)の昆虫・予報。
ガムシ科ホソケシガムシの記録がある。
93. 高橋寿郎(1980) 県下の注目すべき昆虫。
鳥と自然(16):8-14。
ムカシゲンゴロウ, メクラゲンゴロウについて解説。
94. (株)都市緑地研究所(1980) 神戸市道高速道路2号線生態系調査業務(その1, その2)。B5. 130p。
ガムシ科1種。キバネケシガムシ, ミズスマシ科オオミズスマシの記録がある。
95. 仲田元亮(1980) 「能勢の昆虫」その後。
きべりはむし 8(2):18-21。
ゲンゴロウ科1種。ゲンゴロウが記録されている。
96. 阪口浩平(1981) 図説 世界の昆虫 5. ユーラシア編。A4. 264p. (保育社・大阪)
pl. 21, f. 5, p. 85. メクラゲンゴロウ, 柏原産。
pl. 21, 挿図A~C, p. 85. ムカシゲンゴロウ。
相生市, 姫路市, 太子町, 矢田部の産地記録。
97. 上田尚志(1981) 家島群島の昆虫(2).
きべりはむし 9(1):9-18。
ゲンゴロウ科1種。ハイイロゲンゴロウが記録されている。
98. 西村 登(1981) 兵庫県円山川水系, 八木川の底生動物。
関宮町史資料集第3巻:272-332。
ヒラタドロムシ科2種。ヒラタドロムシ, マスダドロムシ=マスダヒラタドロムシが記録されている。
99. 木下賢司(1982) 自宅附近の燈火で採集した昆虫あれこれ。
IRATSUME(6):77-79。
豊岡市弥栄町での記録である。
ガムシ科3種。ガムシ, コガムシ, ヒメガムシ。
ゲンゴロウ科5種。ゲンゴロウ, ハイイロゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, キベリヒメゲンゴロウ=キベリクロヒメゲンゴロウ。
100. 大阪の昆虫をしらべる会(1982) 能勢・初谷川の水生昆虫の幼虫しらべ。
Nature Study 28(8):7-9。
初谷川の上流部(大阪府豊能郡豊能町吉川)と中流部(川西市笹部)での調査の結果である。甲虫ではモンキマメゲンゴロウ, ミズスマシ, アワツヤドロムシ *Zaitzevia awana*, ゲンジボタルと記録されているが, ゲンジボタル以外は上流部で得られているようである。
101. 淡路自然研究保護連合会編(1982) 島の生きものたち(淡路の生物誌)
神戸新聞出版センター刊。
p. 44-45. オオミズスマシ, ミズスマシについて写真をつけて解説がある。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)